

全国万引犯罪防止機構

通常総会と調査報告

青少年の意識と被害実態調査

NPO法人全国万引犯罪防止機構(河上和雄理事長)は6月24日、千代田区で通常総会を開催した。

議長として山村秀彦理事長が選出され、議案審議に入った。平成24年度事業報告は、万引犯罪防止の社会的条件整備に向けて、調査研究活動、普及推進活動に重点を置き、活動を行ったことが報告された。

また平成25年度事業計画は、引き続き万引犯罪の防止に関する調査研究事業を行うほか、建議・提言事業、教育研修事業、普及啓発事業、情報収集・提供事業などの計画報告した。

役員の変動として、役員の新任に竹花豊(併せて副理事長に就任)、顧問の新任に樋口建史の両氏が紹介された。

【第2部 調査報告】

1、万引に関する全国青少年意識調査に関する分析
平成17年から毎年行っている調査で、約1万2000人の調査結果を万引防止対策に活用するためのパネルディスカッション。コーディネーターとして坂井昭宏(桜美林大学教授)。パネラーとして樋口建史(前警視総監)、瀧川哲夫(北海道大学名誉教授)、児玉聡(京大准教授)、奥田太郎(南山大准教授)の各氏が参加。

報告は「自分の生活に関わる事柄についての満足度」「万引に対する基本的意識」「万引との関わり」「万引少年に対する対応」「規範意識の育成という課



山村理事

題」という5章から構成される報告書が配布され、それに沿って報告された。
2、全国万引被害実態調査
調査研究委員会の加藤和裕委員長が調査結果を発表し、回収した全国620店舗の調査結果から作成した報告書について説明をした。巻末には万引犯罪の特筆事例として、294件もの事例が紹介されており、「警備員を振り払って逃走することが多々ある」など、具体的な記述があった。
報告会の最後に警察庁生活安全局の山下史雄審議官が総括的なコメントとして、「現代の安全安心が、この万引問題に凝縮されていると認識した。今後も警察庁は官民一体で防犯活動を推進する」と語った。



第2部の調査報告